

////////////////////////////////////
いわて マナビィ マガジン

No.153 2018.2.9
////////////////////////////////////

立春とは申しまして、まだまだ寒さ厳しき日が続いているこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

先週は当センターで生涯学習推進研究発表会を開催し、お陰様をもちまして、無事に終了することができました。ご参加いただいた皆様に感謝を申し上げます。

センター情報

さて、今回は、その発表会の実施状況についてお伝えします。
心配された雪の影響もなく、1日目98名、2日目106名の皆様のご参加を得て、予定どおりの日程を進めることができました。

初日は、今年度、当センターで推進してきました2つの研究についての発表でした。

一つは、丹社会教育主事が主担当で進めてきた「学校と地域の連携・協働のあり方に関する実践的研究」です。

各市町村の担当の皆様を対象にアンケート調査を行った結果といくつかの市町村を訪問しての聞き取り調査の結果から、県内における学校と地域の連携・協働の現状と課題をまとめ発表しました。

もう一つは、松川社会教育主事が主担当となり、最終年次を迎えた「効率的・効果的な事業評価のあり方に関する実践的研究」です。

昨年度に引き続き、当センター事業の効率的・効果的な評価に取り組み、加えて今年度は、遠野市と連携し、子供を対象とした事業の評価を共同で実施した結果等について発表しました。

発表後、参加者の皆様からは貴重なご意見を、また、新妻岩手大学名誉教授からはご助言をいただきました。特にも最終年次となる評価に関す

る研究は、今後、県内市町村において、活用していただけるよう当センターとしても支援に努めてまいりたいと考えております。

2日目は、高校生レストランの仕掛け人である皇學館大学の岸川教授から、「未来の大人たち私たちができること」と題し、レストランの立ち上げから軌道に乗せるまでの高校生の思いを大切にした様々な人と人とのやりとりを中心に講演いただきました。

その後は、高校生による地域課題の解決を図るための実践3事例を発表いただきました。

県立黒沢尻北高等学校が取り組んでいる「きたかみ世界塾」は、地域をフィールドに、課題解決力・価値生産力を高め、将来自分が探求したいこと、生み出したいことを明らかにする学修のことであり、いわてNPO-NETサポートが関わりながら進めている事例。

NPO法人みやっこベースでは、震災後、主体的に社会参画する若者を育成するために「高校生サミット」の実施や「商店街MAP作成」、「ご当地土産コラボ商品開発」などに取り組み、やがて地域の人材として根づくよう社会人のスタートまでもサポートしている事例。

大館市中央公民館からは、地域に活力が出てくるように高校生が公民館行事や地域行事に参加し、地域の活性化や地域課題の解決へ取り組んでいる事例。

どの発表もそれぞれの地域の実情に合わせた取組が進められているという印象を受けました。今後は、県内各地で高校生など若者が地域住民とともに地域の教育課題の解決につながる取組が展開されることを願っております。

当センターの研究発表資料については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/kenkyu/kenkyuhoukoku.html>



このメールマガジンは、県内小・中学校、義務教育学校、社会教育関係者及び生涯学習・社会教育に関心を持たれている登録者の皆様に無

料で配信しています。ご意見・ご感想、登録・登録解除は下記アドレスにご連絡ください。⇒ E-mail ; takashi-kuji@pref.iwate.jp

メルマガのバックナンバーをセンターHP「まなびネットいわて」で閲覧できます。⇒ <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

左下の「発行物・刊行物」>「いわてマナビィマガジン」をクリック



発行：岩手県立生涯学習推進センター（花巻市北湯口 2-82-13）

編集：久 慈 孝